

# 陽気だより

養徳社 検索

No.2 2007.5.15

## 昔の『陽気』から

『陽気』は、昭和24年5月の創刊、平成21年に60周年を迎えます。その足跡の一端を、昔の記事から振り返っていきます。

ハッピーにファッション！



美しいはっぴ姿  
奥 初子様  
天理教  
天理市川原城町388

「美しいはっぴ姿」といふのは、天理教の信者が、活動的な姿で、はっぴ姿を身につけて、活動している姿を指す。天理教の信者は、天理教の教義に基づいて、天理教の活動に参加している。天理教の信者は、天理教の教義に基づいて、天理教の活動に参加している。

昭和二十四年の創刊号の口絵に「美しいはっぴ姿」というのがある。「モデル 奥初子様」と書かれている。

この奥初子さんは、大阪にある教会の会長さん。

時は大正末、おぢばでのひのきしんの最中、初子さんは当時の別席場で生まれた。それを伝え聞いた二代真柱様が、「これは、初めてのこと」ということで「初子」と命名されたという。今年、初子さんは会長職をゆずられる。

文学の天才が見た天理教(2)  
三島由紀夫氏 宗教と文学を語る  
(昭和26年8月号の『陽気』より)

記者 どうでした、おぢばの印象は……。

三島 とにかく大きいのに驚かされましたね。そしてその世界の人々が、本当の人間のよろこびを知っていると思いました。保田與重郎氏がこう言うことを言っていますね。「天理教の人は、その生活の

上で、原始的な人間によるこびを實踐している」

私もそう思うのですが、天理教は他の宗教のように近代人に威圧を加えませんか。他の宗教は皆現世否定の思想が根本に流れています。そういう思想の上に教理が成り立っているでしょう。ニイチエはその現世否定の思想に反抗して生の哲学を打ち立てました。折角の現世の肯定も反抗に終ってしまつて、どこか人を息苦しくさせるような暗いところがありますからね。

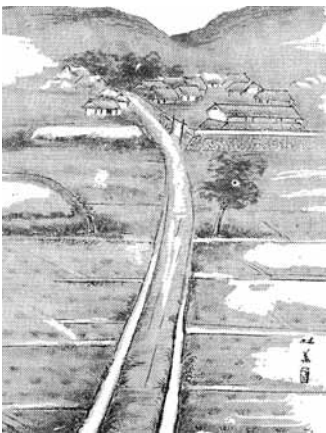
ジイドが、宗教(キリスト教)は自分が他のものになりたくないという作用、自分でありたくないという他へのあこがれだ、ということを書いていますが、日本の宗教でも仏教はみな来世というもので民衆の心を誘惑するわけですからね。(終)

## 新・おぢば今昔・余話

現在の天理本通りに、かつて川が流れていたことを知る人は少ない。昭和四十一年十二月号の『陽気』には、国士館大学教授・関泰祐氏(たすけ)がそのことについて、次のような文章を書いている。

——現在には目ぬきの通りの下にかくれているあんきよ(暗渠)が、当時はまだあらわな小川として流れていて、街を左右両側に分けていました。そして、片側には多く教会詰所が立ちならび、他の片側には、神具店やその他の商店が住宅とまざり合つてまばらに並んでいました。——明治四

十四年、著者が天理中学(旧制)時代のことである。この片側の道を、毎晩、本部へ夕づとめに通つた。当時の中心街は、この通りだけで、あとはたんぼばかりだったという。



明治35年ころの三島村の西端(現在の天理本通り・右上は当時の郡山詰所)「おぢば今昔ばなし」より

## 教祖の面影

偲ぶ「おもかげ」

その話というのは大体次のようなものであった。

「二度、私は教祖にお目にかかった」

と、母は語っていた。

「大阪から夜通し歩いて十三峠を越しておぢばへ帰る。しかしすぐにおやしきへ行けない。巡査が立番していて一人も中へ入れてくれないので、私たちはいったん丹波市の『扇屋』という宿屋に落ちついた。そして待っていると、真夜中ごろになっておやしきからお知らせに来て下さる。一同、さあ、今や」と、急いでおやしきに駆けつける。そして先生方のお取次ぎで教祖にお目にかかるのや」

その当時のことを、今に見てもいえるように、母の眼は急に光り出したようである。

「大阪の天恵組のものでございます、と取次の先生が申し上げて下さる。教祖は一段高いた。一同が柏手をうつて教祖を拝んだ。すると教祖は、ご

苦労さんです」とおっしゃつて下さり、ご自分もまたお手をたたいてお手を合わせ下されるのや。もったいないことやと思うた」

それから母の眼にうつった教祖の御面影を次のように語ってくれた。

「背は高いほうであった。お腰はしゃんとしておられたけれど、幾分かがみ加減であられたようにも思う。色の真白なお方で、頬が桜色していて、ちようど十七、八の娘さんのようなお顔色やった。そして真白なお髪を茶筌にお結いになっておられたが、お身体つきは幾分ほっそりしておられたようである」

（『おぢば今昔ばなし』今村英太郎著  
・道友社新書より）

## 思春期のうた

○給食を食べた後の五時間目  
夢の中で授業うけている

二年二組 木村申枝さん  
○父と母いつも会話は代名詞  
聞いている私は感嘆詞

二年四組 中村友香さん  
○友達の恋愛相談のっている  
私も実はその人が好き

二年一組 榎屋 瞳さん  
（天理中学校誌『わかぎ』29号より）

## インフォメーション

講演会CD 5月末発売

三月二十五日開催の「陽気読者講演会」（さあ、これからや・植田与志夫）の録音CDを発売します。還暦を過ぎ

てから外国語をマスターし、80歳の今も韓国・台湾で布教に励む植田氏の、熱誠あふれる話には、自ずと胸が震えます。燃えること間違いなしの内容です。

『陽気』六月号からの記事も、あわせてご覧ください。  
（定価11,260円 送料150円）



講演会CDは、他にも「笑いと健康・村上和雄」「生き方が病気を決める・今中孝信」「家族のきずなを考える・宮崎伸一郎」などがあります。

講演会のご案内  
6月25日（月）午後2時よ

り、おやさとやかた南右第二棟「陽気ホール」において、第8回「陽気読者講演会」を開催します。

講師は、菅原圭悟先生（憩の家精神神経科前部長）。テーマは、「うつ病の早期発見、早期治療の「コツ」」です。

入場無料。開場は30分前です。身近な方へのサポートやおたすけの一助に……。

## 新刊のご紹介

好評をいただいている『生き方メッセージ』（松宮守著 新書判・232頁 定価1840円）は、『陽気』誌に平成16年から18年まで、野島良平のペンネームで連載したものに加筆して単行本にしたもの。時々の社会の現象や、人の動きや思いについて、さまざまな視点から書き綴ったエッセイ集です。気づきを与えてくれる一書です。



※ご購入は、おぢばの各書店でお求めくださるか、直接当社へご注文ください。  
（電話0743・62・4503）

## 養徳社 よもやま話

★本誌連載物の取材で、飯降伊蔵本席の生家がある向淵へ行ってきた。薫風がさわやかで、以前に比べ道路はかなり整備されていたが、天理市内から小一時間ほど離れたあたりには、田植えを控えた田園があらこちらに見られた。

道の偉大な先人が生まれたところ、と思うだけで、しばし時間がスリッパしたように思えた。

★四月から、天理本通りの神具店に『陽気』を置いていただいています。多くの方々の目に触れるよう、今後詰所にも置いていただけるように考えています。

★陽気読者講演会「さあ、これからや」のCDの音声編集をすることになった。傘寿で時折、韓国語で話される講師の力強い声に奮い立つものを久々に感じた。若い世代の人たちにも是非聞いてもらいたいと思う。

★養徳社のブログで「陽気だより」第1号よりダウンロードができます。ご覧ください。

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。

養徳社